

(様式2)

平成 23 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590100424		
法人名	社会福祉法人 愛宕福祉会		
事業所名	グループホームなかのくち		
所在地	新潟市西蒲区福島311-1		
自己評価作成日	平成23年10月12日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.n.kouhyou.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成23年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者にとってグループホームは新しい家でありまた入居者、職員は家族でありたいといった考えのもと、入居者にとってこれまでしてきた事をできるだけ継続しまた出来る事を發揮して頂けるよう支援しています。
日々の会話を大切にし寄り添うケアに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームなかのくち」は新潟市西蒲区の田園地域に位置し、平屋建てで、落ち着いた外観である。同法人の特別養護老人ホームをはじめ、地域包括支援センター、中之口老人福祉センターなどが隣接しており、研修や緊急時対応等の連携体制ができています。また、利用者の様子等に合わせた傾聴や畑作りなどのボランティアを活用したり、地域の子どもたちの訪問を受け入れるなど、開放的なホームづくりに努めている。

センター方式の様式を工夫したアセスメントシートを活用して利用者の生活の様子やニーズなどをきめ細かく把握し、一人ひとりの思いや意向を大切にしている。隣接施設の地域交流スペースの喫茶コーナーでワンコインランチを食べたり新潟市中心部の百貨店にでかけるなど、できる限り利用者の希望を叶えるように努めている。

訪問調査時も、利用者や職員の会話する声や明るい笑い声が聞こえており、職員は理念にもある「共に笑顔で暮らす」ことを実現するために、「座って話そう」という姿勢を心がけ、利用者へ寄り添ったケアを実践している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>「一人ひとりの想いを大切に共に笑顔で暮らします」という理念について、個別ケアの視点から一人ひとりの入居者について、会議や日々のミーティングで話し合い情報の共有に努めている。また、認知症介護実践者研修の課題を機に、理念の共有について取り組みを再度全員で考え、意見交換を行っている</p>	<p>年1回出される業務運営計画を全員に配布し、理念や方針の共有を図っている。認知症介護実践者研修への参加を機に日頃の業務の中で、職員間で互いの姿勢が理念に沿っているかを確認し合っており、常に寄り添うケアの実践をめざしている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の自治会の一員とし、地区の一斉清掃や運動会への参加を行っている。また、老人会にも入居者と一緒に参加している。日常的な買い物も近隣のスーパーを活用するよう心掛けている。ゴミだしも地域のゴミステーションを利用している。ボランティアや入居者知人から野菜を頂いたり、お話しに来ていただいたりと交流を図っている</p>	<p>地域の方から野菜の差し入れがあったことをきっかけに、日常的な交流が行われている。また、近隣の子どものボランティアスクールの受け入れに協力して以来、子どもたちの訪問も続いている。ホームについて知らない地域の方もおられるため、地域の老人会などに利用者と職員が一緒に参加してホームの説明をしている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>広報誌の発行を年4回を予定している。地区の老人会に入居者と一緒に参加し、グループホームの紹介を行っている。ボランティアスクールや学校の体験学習の受け入れを行っている。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議で医院からいただいた意見を参考にケアに反映させている。老人会への参加も委員の提案で実現できている。また、野菜作りを医院からも手伝っていただいている</p>	<p>2カ月に1回の頻度で会議を開催している。家族、自治会の代表、他の法人のグループホーム管理者、地域包括支援センター職員で構成されており、ホームの様子などを報告し意見等を得ている。会議での話し合いの結果、地域の方が訪問やボランティアに来てくれるようになったり、地区の研修会に参加させてもらうなど、会議が運営に活かされている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター職員から助言を頂いたり、相談をさせていただいている</p>	<p>地域包括支援センターとの連携が密に取られている。成年後見等についての助言を得たり、ホームの利用について相談を受けたりと日常的に協働しているほか、センター主催の研修や講演会にも参加している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣接する中之口愛宕の園と合同の研修に参加し「身体拘束しないケア」について理解を深めている。施錠は夜間のみとし行っていない。歩行器具等使用している入居者がいつでも使用できる位置におき、自由に移動できるよう努めている	職員は隣接する本体施設(特別養護老人ホーム)との合同研修会に参加して身体拘束に関して正しく理解している。職員同士で話し合いを行って理解を深めるとともに、研修や話し合いの内容は実際のケアの中での振り返りに活かしている。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内の身体拘束・虐待防止委員会で事例検討を行い、学んできた内容を職員間で話し合いを行うようにしている	職員は隣接する本体施設との合同研修会に参加し、虐待防止に関する理解を深めている。さらに、弁護士会が発行している虐待防止についての冊子等を利用した職員研修会を行ったり、冊子を家族にも配布して、虐待の予防に努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者が成年後見制度を利用されている。今後必要となる入居者も折られるため随時勉強会を開いていきたい		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前に自宅訪問やグループホームにお越しいただき、疑問点や不安感ができるだけなくなるよう説明をしている。入居前に何度でもお越しいただき雰囲気を感じていただき、いつでも相談していただけるよう説明している		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や電話連絡、意見箱の設置等で家族から意見や要望を引き出せるよう働きかけているが、まだまだ意見を言っていたくに至っていない。今後も信頼関係を深めると共に意見、要望を言ってもらえる関係作りに力を入れていきたい	日々把握した利用者の希望等については、職員会議において、実現できるよう話し合っている。家族へは、3ヶ月に1回手紙で本人の状況報告を行い、その返事をもらうようにしており、その中で意見や要望等を寄せてもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のグループホーム会議や中之口愛宕の園との合同会議を行っている。また1日一回の申し送りや申し送りノート、職員との面談等を活用し意見交換に努めているが、より多くの意見交換が必要と感じている	職員会議や「業務検討会議」で職員の意見を聞いている。会議で出された職員の様々な意見や提案は記録し、検討して運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度、キャリアパス制度、メンタルヘルスケアなど整備されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内において職員の段階や職種に応じて、内部研修、外部研修を実施している。また、職員が働きながら勉強できる機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他方人の管理者が委員として参加していただいております。意見交換を行っているが、施設全体としては交流が行っていない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できるだけご本人の要望や困っている事に耳を傾けている。入居までに何度も遊びに来ていただき雰囲気を感じ取っていただき不安の解消に努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居される前に自宅に訪問にしたり、ホームにお越しいただいたりし都度、確認している。また、本人のいるところで話しにくい内容等あった際は、日を改めお聞きしている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の問合せの際より本人や家族の話に耳を傾け、本人、家族にとって最善の対応ができる様具体的な話し合いに努めている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者一人ひとりの想いを大切に努めている。入居者の出来る力を引き出すばかりではなく、寄り添う事を大切な時間としてご利用者から学ばせて頂くことも多くあります。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居される際に、ご家族の協力が必要なことを説明している。入居者にとってご家族が精神的支えであること、家族と共に支えていきたいことをお伝えしている。面会時に日常の出来事など伝えて、喜びや悲しみ、苦しみなど共有できるような関係性ができるように働きかけている。	入居前のホーム見学時の段階から、家族とホームとは共に本人を支え合う関係であることを説明している。利用者本人の意向や要望を把握するために「あなたの想いシート」というアセスメント様式を活用し、それを家族と共有して、利用者のその人らしい暮らしには家族の支えが大切であることを伝えていく。	職員の顔と名前がわかる表示などがあると、家族の安心や親近感につながり、家族とホームとの関係づくりがより円滑になるのではないだろうか。このことは家族や面会者からも希望として寄せられているとのことであり、これも含めて、今後、家族との協働関係構築に向けたさらなる工夫や取り組みを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人が訪れた際は、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。今まで築きしてきた関係性が途切れないように、お店や美容院、友人宅等に気兼ねなく言うて頂けるよう支援させていただき、関係性の継続に努めている	入居前に利用していた併設のデイサービスで知人との交流できるようにしている。また、今まで利用者の自宅にお茶飲みに来ていた知人がホームを訪ねてくれている。入居前の生活の様子について細かく情報収集し、一人ひとりの生活習慣等に応じた個別の外出も実施している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性や入居者同志の交流を大切に、気持よく楽しく生活ができるように、職員は必要以上に割り込まず、関わり支えあえる橋渡しの役割を行っている。笑顔で心がけ共に過ごす空間の雰囲気作りにも努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了された方でも、関係性を大切にしている。必要に応じて相談を受けたり、お茶を飲みに来ていただいたりできる様に心掛けている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの想いシート」でこれまでの習慣や得意なことなどと呼ばれたいか行きたい所などお聞きし暮らし方の希望や意向の把握したり、日常的な会話の中からの要望や意向をくみ取れる様に努めている。内容等を経過記録に残したり、申し送り職員間の情報共有に努めている。	センター方式のアセスメント用紙を活用して利用者の思いや意向の把握に努めている。アセスメント用紙には家族から聞いたことも追記しており、その内容については適宜、利用者や家族に確認をして見直しをしている。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお聞きし24時間シートを制作し把握に努めている	入居前のホーム見学の際や、その後の自宅訪問の際に、これまでの生活の様子やホームでの生活の希望などを聞いている。入居後も、アセスメントシートを活用して継続的に情報の把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の経過記録や1日一回の出勤職員全体のミーティング等で状態の変化や様子を職員間で共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向をもとに、職員間でも意見を出し合い作成時に反映している	利用者一人ひとりについて職員が得た情報や気づきをもとに、支援のあり方を日々話し合っている。本人や家族の希望、支援の目標と計画内容、支援経過、モニタリング結果等がひと目で把握できる一覧表を作成し、常に確認しながら現状に即した支援内容を検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアの実践・結果・気付きや工夫など経過記録に残すと共に口頭にて申し送るようにし、情報を共有に努めている。モニタリング・プラン更新時に役立てている。記録の内容不足の面もある為、今後一人ひとりの気付きを充実していく必要がある		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に寄り添えるよう努めている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の商店や郵便局、金融機関、入浴施設、美容院等希望に応じて活用している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を希望されている方は継続して受診していただいている。緊急時にも受診できるよう、ご本人、ご家族の意向をふまえながら協力医から診ていただけるよう対応している。最近主治医を変更された方も居られる。	入居前からのかかりつけ医を希望する方は家族の協力を得て受診しており、必要に応じてホームから情報提供を行っている。近くにある協力医に受診している方もあり、協力医とは普段から連携をとって随時相談したり助言を得ている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	今年度より、看護師1名配置となる。日常の体調管理や、相談、夜間オンコール対応を行っている。経過記録や連絡ノートを活用し情報共有に努めている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して入院できるように、ご家族、病院に情報提供する他、入院中の状態把握に努めている。ご家族の意向をふまえ、できるだけ入院前と同じような生活ができるよう環境を整えられるよう病院期間と情報交換を行うよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される時点で、最期をどこで迎えたいかお聞きすると共に、グループホームとしても出来る限り最期まで生活して頂けるよう入居者、ご家族、主治医、協力医と話し合い職員も共通意識のもと取り組んでいる	重度化、終末期へのケアに取り組んでおり、家族や主治医、隣接する本体施設とケア方針や協力体制を具体的に話し合い共有している。経験の浅い職員に対しては、職員間で互いに支え合い、ケアの技術を助言し合うなど、チームとして協力して取り組んでいる。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署職員により救命講習や園内研修に参加しているが、定期的には行えておらず、まだまだ実践力は不足している	緊急時対応のフローチャートをわかりやすく具体的に整備している。年1回は救命救急講習を受けているが、ホームの対応フローチャートにそった実地訓練等は定期的には行われていない。	フローチャートは目で見ただけでなく、全職員が確実に実践力を身につけられるよう、ホームで実際に起こり得る場面を想定してフローチャートに沿った実践的な訓練を定期的・継続的に行うことが望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練時に、地域の消防団員にも参加していただき避難訓練を行っている。日頃から実際に起きたことを想定した話し合いの必要際を感じている。	管理者が地元の消防団に所属しており、実際のホームの避難訓練の際にも消防団から参加してもらっている。避難時のおんぶの仕方等、具体的な指導をうけている。また、隣接する本体施設との連携体制もとられている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳や誇りを傷つけないよう親しみをこめた言い方の中にも礼儀を忘れず対応している。	職員は、親しみをこめつつ、本人の気持ちをくみ取りながら穏やかな口調で言葉がけをしている。職員の声が少し大きくなってしまった際なども、互いに注意し合っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の意向をふまえて実施している。必ず確認を行う事で意向に添えるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースにあわせ個々にあわせた希望に沿った支援を心がけ実践している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される美容室に行ったり洋服の買い物や化粧をしたり、外出したりしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	常日頃から嗜好を伺い、毎日一緒に食事の準備から後片付けまで行っている。また、季節ごとに笹団子やちまき、梅ジュース作り等入居者に教わりながら行っている	食事の準備や調理、後片付けなど利用者自身ができることを、職員やボランティアがさりげなくサポートしながら一緒に行っている。近隣の方から頂いた旬の野菜を調理に用いたり、利用者に教わりながら郷土食を作るなど、食事作りを楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	経過記録に食事量や水分量を記入し一日の状態を把握している。盛り付けしお出しする際量をお聞きしている。その日の体調に合わせてお粥やパン粥を作ったり、食べられる物をお聞きし作れるよう努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご利用者一人ひとりの状態に応じて、言葉かけやお手伝いを行っている。義歯も週2回の洗浄剤を使っての消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの状態に応じて言葉かけや見守り、付添など行っている。経過記録に排泄記録を記入しており、紙パンツから布パンツへの移行等、自立に向けた支援、言葉かけや物品の準備に努めている。	各居室にトイレが整備されており、利用者の状況に応じた支援をしている。日常生活の中での排泄の様子などから、利用者一人ひとりの排泄習慣を把握してさりげなく声かけし、自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時15時に水分補給をおこない、1日の食事の中に乳製品と果物を必ず1回は摂取して頂いている。また、お茶のほかにジュース、コーヒー、ゼリー等工夫して水分を取っていただけるよう心掛けている。それでも排便が困難な方には、かかりつけ医に相談して薬を変更して対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は特に決めていない。ご利用者の希望や状態に応じて1～2日おきに入浴して頂いている。夜間の入浴は現在行っていないが、希望があれば対応できるよう配慮させていただいている。	本人の身体状態に合わせて入浴支援の方法を検討している。毎日入浴できるようにしており、利用者一人ひとりの希望に応じて支援している。時には隣接の福祉センターの大浴場を利用して入浴を楽しんでもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者それぞれのご希望される場所(ご自分の部屋やリビング)で休んで頂いている。寝具は週1回交換のほか、汚れた際も随時交換させていただいている。また、ご利用者の体調や状態に応じて、掛物調節やお部屋の温度・湿度管理に気をつけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬は一覧化しいつでも確認できるようにファイルに閉じてある。服薬内容の変更については経過記録や申し送りノート、口頭で確認し周知している。服薬状況はチェック表を用い、必要に応じて時間記入をするなどして把握に努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者の一人ひとりの能力や得意なこと、興味のあるものなど、過去の生活歴やお話から見つけ出し、役割や張り合いが持てるようにしていく。嗜好品のタバコは職員が付き添い吸っていただいている。散歩などに出かけて気分転換等支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩や買い物は状態に合わせて支援させていただいている。ご家族に声を掛け一緒に外出できるよう支援も行っている。	利用者に声かけをして散歩に出かけたり、本体施設の地域交流スペースでのランチや演芸観賞、隣の福祉センターの大浴場の利用など、利用者の希望に応じて外出を支援している。また、入居前の生活の様子について細かく情報収集し、一人ひとりの生活習慣等に応じた個別の外出も実施しており、利用者に喜ばれている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望、応力に応じて、お金を持っている方もいる。郵便局や金融機関に行き自分で引き出されている方もいる。その他は事業所で管理押して必要に応じて使えるように支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙があった場合都度支援している。電話をかける際もご家族に協力していただき支援している。定期的に葉書を出されておられるかともいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が生活をし易く快適に過ごせるようにつらえをつとと一緒に検討し変更している。今年度ウッドデッキと花壇を作製し季節の花を見たり屋外で食事をしたりと季節を感じていただけるような支援を行っている	花壇を作ったり、落ち着いた色調の壁掛けやカーテンを用いるなど、家族や地域の方が訪れやすく親しみやすい雰囲気的环境作りをしている。リビングの大きな窓は採光が良く、夏にはこの窓から地域の花火を観ることができる。利用者が横になってくつろげる畳スペースも設けている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング、ソファと各々が好きな場所で過ごしていただけるよう配慮している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅から使い慣れたものを持ってきていただき、居心地のいい空間になるように、ご家族と相談しながら以前の暮らしと変わらない生活を送っていただけるよう支援している。 見慣れた持ち物を取り入れることで、くつろげる空間となっている。	居室には、利用者の馴染みの物品や家具、お気に入りの写真などが飾られており、その人らしい雰囲気作りがされている。居室には家族の宿泊も可能であり、希望があれば布団の貸し出しも行っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりの状態に応じて、付添見守りを行早稲手頂く中で、出来るだけ本人の能力を引き出せるよう必要以上に管理や危険な物を排除せず配慮している		